

行政視察等報告

(会派 燦友会)

<視察目的>

- ・長野県上田市
子ども、若い世代、高齢者が楽しみながら気軽に参加できる健康増進施策について調査・研究し、参考にするため。
- ・国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター北陸研究拠点（新潟県上越市）
農業の最新技術や品種改良など食と農の未来創出に向けて、先進的な総合研究をしておられる国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（以下農研機構）について調査・研究し、参考にするため。
- ・富山県富山市
赤ちゃんからお年寄りまで、障害のあるなしに関わらず受け入れをしている「富山型デイサービス」について調査・研究し、参考にするため。
- ・石川県白山市
現在安来市議会で検討中の議会基本条例。そのなかで現在導入を検討している通年議会を平成 25 年 9 月より導入している白山市議会を調査・研究し、参考にするため。
- ・石川県小松市
ものづくり精神の継承と科学技術意識の啓発、未来に向けた地域活性化と産業振興を目的とした「サイエンスヒルズこまつ」について調査・研究し、参考にするため。

<視察概要一覧>

視察月日	視察・研修先	視察施設	視察内容
平成 29 年 7 月 11 日 (火)	長野県上田市	ひとまちげんき 健康プラザうえだ	健康幸せづくりプロジェクト事業と 健康づくりチャレンジポイント制度について
平成 29 年 7 月 12 日 (水)	新潟県上越市	国立研究開発法人 農研機構 中央農業 研究センター 北陸研究拠点	農研機構の研究調査概要について
平成 29 年 7 月 12 日 (水)	富山県富山市	富山市役所	富山型デイサービスについて
平成 29 年 7 月 13 日 (木)	石川県白山市	白山市役所	通年議会を含めた議会改革について
平成 29 年 7 月 13 日 (木)	石川県小松市	サイエンスヒルズこ まつ	科学とひとづくりについて

<視察概要報告>

1. 長野県上田市

●対応者：	上田市議会事務局	局長	金井 浩一様
	〃	議会担当係長	星野 洋一様
	上田市健康こども未来部健康推進課長		石井 正俊様
	〃	課長補佐	中山 勇次様

●場 所： ひとまちげんき 健康プラザうえだ

●概 要：

「健康幸せづくりプロジェクト事業と健康づくりチャレンジポイント制度について」

上田市は、糖尿病・血糖値の高い人が増えていること、また健康に関心が薄い市民が多いことが健康課題と考え、様々な事業を展開しておられます。その一つが「健康幸せづくりプロジェクト事業」でその具体的な施策が以下の「6本の柱」です。①子どもの健康づくり支援体制の強化②若い世代からの健康づくり支援の推進③楽しみながら続ける健康づくり支援の構築④ウォーキング等による身近な地域での健康づくり支援の構築⑤科学的根拠に基づいた健康づくり⑥運動習慣と地域コミュニティの活性化です。もうひとつが特定健診を上げるために取り組んでおられる「健康づくりチャレンジポイント制度」です。各種健診や各種イベント、またウォーキングすることによってポイントが貯まり、貯めたポイントもバス利用や民間スポーツ施設での健康づくりや「やさい食べよう券」に交換できるなど幅広い特典があります。また社会貢献として貯めたポイントを市に提供してもらい、それを市内小中学校等にスポーツ用品として配布するしくみもあります。

〈考察〉

- 「健康幸せづくりプロジェクト事業」については、「6本の柱」を具体的な施策として子どもからお年寄りまでの健康づくりで、安来市でも取り組みたい事業でした。「健康づくりチャレンジポイント制度」については、健康診断受診率を向上するため、安来市でも何かに取り組まねばならないと感じた。(上廻)
- 健幸都市(スマートウェルネスシティ)を目指すトップの意気込みを感じる。心と体が健康であることがすべての活力の源であり、幸福の第一歩につながると健康づくり事業を実施。とにかく食べ過ぎ、飲み過ぎがちな不適切な食生活、車に頼る運動不足「歩くこと」をキーワードにした健康づくりが展開され、市長の考えひとつでこうも変わるかと感じた。個人的には「インターバル速歩(早歩き3分、ゆっくり歩き3分)」を交互に繰り返すことが、「体重の変化」「腹囲の変化」「中性脂肪値の減少」に繋がることが参考となった。(金山)

○自力で歩ける移動能力を維持するために「健康づくりチャレンジポイント制度」を開始され、ポイント獲得によりこう施設の利用券、農産物との交換、市内学校への用具購入などに利用してもらい健康推進や検診に役立てておられ、わが市でも高齢化社会を向かえ、一考に値すると考える。(遠藤)



○あらためて健康の大切さがわかった。(井上)

○2～3年後に再訪し、取り組みの成果を勉強したいと思った。複合施設の総合保健センター（ひとまちげんき 健康プラザうえだ）は、健康づくりの拠点として、子育て等、有効な総合整備を有する場所であった。(石倉)

○2つの事業とも素晴らしい施策で、他の自治体とは違う独自色もあり、非常に勉強になった。今後より多くの市民からの健康データの集積そして分析・活用がどのように進められていくのかを注視していきたいと思いました。安来市の「健康やすぎ21」にもこのような取り組みを積極的に取り入れることで、医療費・介護費用の削減にもつながると思いました。(作野)

2. 国立研究開発法人 農研機構 中央農業研究センター 北陸研究拠点（新潟県上越市）

●対応者： 国立研究開発法人 農研機構 中央農業研究センター北陸研究拠点
 作物開発研究領域長 技術支援センター長 佐々木 良治様
 //

企画部産学連携室産学連携コーディネーター 荒井 治喜様
 //

総務部 北陸企画管理室長 新津 善博様
 //

総務部 北陸企画管理室 企画連携チーム長 上村 紀美夫様

●場 所：農研機構 中央農業研究センター 北陸研究拠点

●概 要：

「農研機構の研究調査概要について」

農研機構は、我が国の農業と食品産業の発展のための研究開発を行う機関で、正式名称は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構です。今回視察した中央農業研究センター北陸研究拠点は職員数 72 名（組織全体では 3700 余名で本部はつくば市、国家予算 613 億円）で、農業経営、作物栽培、雑草制御、作業技術、土壌肥

料、病虫害防除、鳥獣害、作物育種など様々な研究をしておられます。研究の柱は①生産現場の強化・経営力の強化②強い農業の実現と新産業の創出③農産物・食品の高付加価値と安全信頼の確保④環境問題の解決・地域資源の活用です。農研機構が育成した品種の中には、島根でも知られているブドウの「シャインマスカット」やイネの「にこまる」、大豆の「サチユタカ A1 号」などもあります。

〈考察〉

○はじめて「農研機構」を知った。農業に関すること全てを研究しておられ、特に米、麦の品種改良等興味を持った。平場の大型農業から中山間地の小規模農業の安来市。いろいろなことを相談し、勉強したい。(上廻)

○安来市に県下においても大型圃場整備も整い、農業先進地でもあるが、農産物の生産コストを如何下げるかが、生き残りをかけた模索でもある。他方「インバウンドの時代」。安来市の特産品、安来に旅して食する特産品は何か。名産品は何かと探しても限られてしまう。農家の所得向上につながるようなものがないかと思ったが、限られた視察の時間の中にその答えを見つけることができなかった。(金山)



○農業が抱える課題に取り組み、その成果を広く普及させる機構であり、その説明を聞く中でその成果を安来市でも大いに利用すべきと感じた。(遠藤)

○いろいろな取り組みが勉強になった。(井上)

○中国四国地方には、福山市に西日本農業研究センターがあり、島根県にも拠点施設があることをパンフで知った。大規模（20ha 以上）な試験圃場があり、水稻、大豆、大麦、ソバ、トウモロコシ等が研究栽培されていた。またシャインマスカットは農研機構で育成した品種で、島根県内でも高価格で販売されていると紹介されました。また大型農作業用機械の導入や、新機種の試運転等も機構で実施され、最近では地下水水位制御システム（フォアス）を開発したとパンフに示されており、能義第二圃場での施工実態と重なり、うれしく感じた。意見交換の席では、農業法人化への取り組みや後継者対策、集落営農の課題等が話されました。(石倉)

○上越市も日本海側で近年気候も似てきているので、様々な取り組みについて興味を持って話を聞くことができた。特に花粉症緩和米の研究などもしておられることにはビックリしました。また餅の柔らかさが長持ちする特長の「ふわりもち」は、広島県三原市で試験栽培もしておられるようで、安来市でも可能性があるのではないかと感じた。とにかく安来市の農業の将来を考えたとき、農研機構などが持つ様々な情報・研

究成果も取り入れていくことも必要になってくると強く感じました。(作野)

3. 富山県富山市

●対応者： 富山市議会事務局 議事調査課長 福原 武 様
〃 議事調査課副主幹 朝倉 雅彦様
富山市福祉保健部障害福祉課企画係長 恒川 貴志様

●場 所： 富山市役所

●概 要：

「富山型デイサービスについて」

富山型デイサービスは、平成 5 年に富山赤十字病院を退職された 3 人の看護師さんが開所されたデイケアハウス「このゆびと一まれ」において、赤ちゃんからお年寄りまで、障害者のあるなしにかかわらず受け入れたことから始まり、後に「富山型」と言われるようになったものです。特徴は小規模（一般住宅をベースとして、利用定員が 15 人程度であり、家庭的雰囲気が保たれている）・多機能（高齢者、障害者（児）、乳幼児など利用者を限定せず、誰でも受け入れ対応する）・地域密着（身近な住宅地の中に立地しており、地域との交流が多い）です。行政との連携の始まりは、平成 8 年の「富山市在宅障害者（児）デイケア事業」開始からで、平成 9 年の県の事業や平成 12 年の介護保険制度の開始などを経て、平成 15 年の「富山型デイサービス推進特区」の申請、認定となります。その後平成 18 年に障害者自立支援法が施行され、全国展開となり、現在全国で 1500 以上の事業所がこの富山型を実践しておられます。

〈考察〉

- 良い勉強になり、定住対策・人口増に繋がると感じた。(上廻)
- 安来市にあっても寄附文化を醸成する地区には多々あると思われる。空家等を利用しつつ子ども・高齢者・障害者などすべての人々が地域で暮らし、生きがいとともに創り、高め合う「地域共生社会」は実現可能ではないか。従来の行政にはない民間の柔軟な発想に基づき、またそれを行政側がバックアップするという形で展開されている。将来の地域のあるべき形かなと感じた。(金山)
- 高齢者も子どもも障害者も誰もが一緒に身近な地域でデイサービスが受けられるスタイルで、さまざまな相乗効果が生まれ地域に根ざした利用者本位の運営がなされている。今後このような施設が求められ



と思われる。わが市でも取り組む方向で指導してみたらいかがか。(遠藤)

○良い取り組みだと思った。(井上)

○経過、特徴（小規模、多機能、地域密着型）で良くわかり、市内に 56 事業所が設置されていることが、行政の指導、支援、推進の現れと痛感した。県内目標 200 事業所に対し、富山市では小学校（65 校）区に設置目標であり、数値的には可能と思われるが、直接市が補助する割合は 25%で、現在 1 億 5 千万円余であり、市民の理解のもとで十分可能であると思料した。安来市に取り組み展開するためには、地域の特性があり、精査する必要があると思われる。(石倉)

○今回この富山型デイサービスを視察し、高齢者には日常生活の改善や会話の促進、障害者にとっては自立へとつながっていく効果が、児童にとっては他人への思いやりや優しさを身に付ける教育面の効果、そして地域にとっては地域住民の福祉拠点としての効果があると知り、今後安来市でも地域づくりのひとつのモデルとして考えてみる必要があるのではないかと感じました。また特区の力も痛感しました。(作野)

4. 石川県白山市

●対応者： 白山市議会事務局 局長 北村 潔様
〃 議事調査課 課長 東野 央様
〃 議事調査課 係長 松島 宏樹様

●場 所： 白山市役所

●概 要：

「通年議会を含めた議会改革について」

現在安来市議会で制定に向け取り組んでいる議会基本条例を白山市議会は平成 22 年 12 月定例会で可決し(県下市町では初)、平成 23 年 4 月から施行しております。議員定数についても平成 25 年 3 月から 28 人を 21 人に削減(3000 万円の議会費等を削減)。その一方で議員報酬の改正も実施しておられ、月額 43 万円を 7 万円増額し 50 万円に増額(ちなみに政務活動費は月額 6 万円)。通年議会は平成 25 年 9 月から市民の意思に素早く対応し、議会活動の活発化を念頭に導入しております。また議会報告会も地域や団体、大学などを対象に実施しております。

〈考察〉

○今安来市議会でも基本条例制定に取り組んでいる。課題でもあり勉強になった。議会改革全体では、安来市もそう遅れていないと感じた。(上廻)



○「白山市議会通年議会の実施に関する規定」の中で、特に「第3条 会議は3月に開会又は再開し6月9月及び12月に再開する。この場合において、特に必要があるときにはこの時期を繰り上げ、又は繰り下げることができる。」と、「第8条一般質問は3月6月9月及び12月に行う…会議が繰り上げ、又は繰り下げられた場合はその繰り上げ、又は繰り下げられた月に行う。」は、通年議会に向おうとする安来市議会にも参考となるものであった。(金山)

○通年議会について説明を受けた。移行に関わるいろいろな苦労や制度の問題、移行してからの議会の活性化など聞いた。その中で思っているよりも心配ないと感じた。(遠藤)

○とても参考になった。(井上)

○通年議会は平成25年9月から導入し、メリットは市民の意思に素早く対応し、議会活動の活性化につながり、特に問題はないとのこと。他に平成29年6月にタブレット型端末機の導入や議会報告会のあり方など、参考になることがたくさんありました。(石倉)

○現在安来市議会で検討中の議会基本条例。そのなかで目玉と言っていいのが通年議会。今回通年議会を導入しておられる白山市議会を視察させていただき、特に問題はないと聞き、意を強くしました。(作野)

5. 石川県小松市

●対応者： ひととものづくり科学館（サイエンスヒルズこまつ）

	副館長	浅野 幸恵様
小松市 議会事務局	主査	城丸 優子様

●場 所： ひととものづくり科学館「サイエンスヒルズこまつ」

●概 要：

「科学とひとづくりについて」

「科学とひとづくり」の拠点として整備された「サイエンスヒルズこまつ」は、小松市の小松駅前にある公共施設で、小松製作所小松工場の跡地の一部に設けられた施設です。建築外観デザインは地形と屋根を一体化し、屋上緑化を図った外観は“丘と建築を融合したイメージ”で、他にないデザインです。床面積はおよそ6千平方メートルで、小松市はこの建設に総事業費34億円あまりを投じ、平成25年12月にプレオープン、平成26年3月には全館オープンされています。コンセプトは①理科、科学大好き少年を育成すること②未来に向けた産業を振興すること③里山を活かした人づくりを行うこと④再生可能エネルギーの課題にみんなで取り組むことだそうです。入館者数は平成28年が1万4400人余りで、市の小学校の授業にも組み込んであることから子どもたちの利用が多いです。とにかく科学技術立国を実践する人材の育成つまり「未来を創る ひとづくり、ものづくり」の科学館です。

〈考察〉

○小松市と言えば、すぐに建設機械の「コマツ」が頭に浮かぶ。安来市で言えば「日立」というように「和鋼博物館」をPRしたい。もう少し多くの来安者があるように工

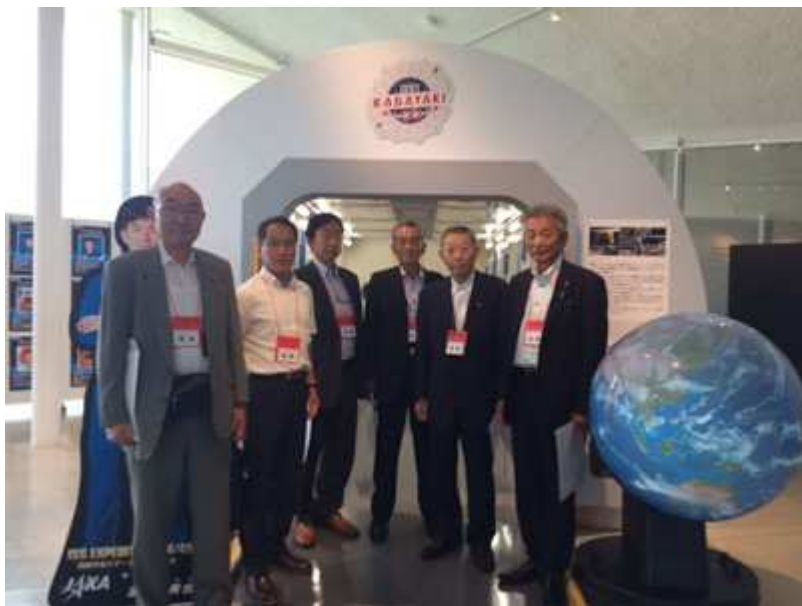
夫したい。(上廻)

- まずは小松工場跡地に建てられた流線型の屋根に圧倒させられる。建設機械コマツではなく、およそ 1 億 4000 万年～1 億前の中生代植物化石、九谷焼の技と科学、JAIST で合成された各種次世代材料の紹介、北陸先端科学技術大学院大学、金沢大学の紹介。各種実験グッズ販売。子どもたちから楽しみ学べて、ものづくり精神と継承と科学技術意識の啓発には学ぶべきものが多く、「ものづくり小松」をアピールしていると感じ、日本の最先端技術の変化にも触れられる子どもたちを羨ましくも思った。

(金山)

- ひととものづくり科学館「サイエンスヒルズこまつ」を見学させていただいた。子どもには好奇心を、大人にはさらに深く勉強することにより科学というものの奥深さが理解でき、未来創造力が育まれると思った。(遠藤)
- こどもが楽しめ学習できるものがたくさんあり、参考になった。(井上)

- 案内(説明)は副館長さんでした。教員 OB で嘱託職員であられたが、館内職員とコミュニケーションが良く、楽しそうに案内されたのが印象的でした。また地元企業とのコラボによるまちづくりの姿を見たような気がします。(石倉)



- コマツの城下町らし

い施設で、子どもたちに様々な体験やものづくりを通じ、科学技術を興味深く学べるようになっていました。また身の回りにある不思議がどうしてこうなっているのかもよくわかりました。安来市にも様々な施設がありますが、体験できるような工夫がもっと必要かもしれません。(作野)

以上